

## 20200301 第 72 回卒業生式辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご列席の保護者の皆様、心からお慶びを申し上げます。

本日、こうして卒業式を挙行できることを本当にうれしく思っています。在校生は休校中です。規模を縮小し、式の内容を精選し、マスクも用意して、こうして卒業式を挙行しています。みなさまとともに、卒業生の晴れの日をお祝いできることをいつにも増して、本当にうれしく感じています。

さて、卒業生のみなさん、私は機会あるごとに、女性をとりあげてお話ししてきました。今日は、サンナ・マリーンさんの話をします。サンナさんは、フィンランドの首相です。昨年 12 月にフィンランドに誕生した世界最年少の首相で、34 才のお母さんです。

毎日新聞のコラムにこう書いてありました。『……マリーン首相のニュースで一番心を動かされたのは、その若さでも性別でもない。彼女の経歴だ。幼いころに父親のアルコール依存が原因で両親が離婚。本人が「レインボー育ち」と語るように、その後、母親とその女性パートナーに育てられた。中学までの成績は振るわなかったが、高校や自治体の運営する施設で自分の居場所や仲間を見つけ、親族の中で初めて大学進学を果たした。「私を救ってくれたのは福祉制度と学校の先生」と政治家の道を志したという』。

フィンランド国内では、若いことや女性であることは話題にならないそうです。新内閣の閣僚は女性 12 人、男性 7 人、連立政権を組む 4 党の党首はすべて女性で、3 人は 30 代前半です。フィンランドの人に言わせると、「性別や年齢は関係ない。スキルと才能で立場にふさわしい人を選んだ」のだそうです。

国連の幸福度ランキングでフィンランドは 2 年連続世界第 1 位(156 ヲ国)です。日本は 58 位です。

福祉国家として名高いフィンランドですが、実は、急速に進む「少子化」に悩んでいます。出生率は 1.4 で「北欧の日本」とも言われています。雇用問題や移民問題、地球温暖化などフィンランドも日本同様、様々な問題を抱えています。その困難を乗り越える力を持つ人として選ばれたのが若い女性なのです。

とても大雑把に言うと、今世界は「経済成長」という価値観で行き詰っています。問題を解決するには、新しい価値観を持った新しい人たちが必要なのです。若いこと女性であることはその条件にぴったりあうのです。

とはいえ、私たちの世界が抱える問題の解決は簡単ではありません。サンナさんよりもっと若いグレタさんを思い出してください。「地球温暖化防止」

を訴えて一人で始めたスクールストライキが世界中の若者の運動に発展していますが、世界の CO2 排出量は、去年も増加しました。道のりは、厳しいです。

「私たちは、微力だけれども無力ではない。」これは、長崎の高校生平和大使の合言葉です。どうか、ここにいるみなさんが、微力を集めて、世界を変えていく一人であって下さい。行き詰っている私たち大人にとって、皆さんこそが、未来への希望です。

さて、皆さんの「6年間で振り返って」を読ませていただきました。神奈川学園の6年間に様々な成長のチャンスがあったことが書かれていました。そして感謝の気持ちがたくさん書かれていました。こんなクラスの担任は本当に幸せだなあと思いました。

「生まれ変わっても神奈川学園とまでは思わないけど、・・・私もいろいろ頑張るから、神奈川学園も頑張ってください」と書いてくれた方、神奈川学園も頑張ります。「同窓会がいっぱいある学校でよかった」と書いてくれた方、4月29日の同窓会で、是非お会いしたいです。

みなさんのご健康とご活躍を心からお祈りしています。

以上を持ちまして、式辞といたします。